

対話的な学びを大切に

園長 篠澤 恵理

幼稚園の園庭には、千日紅の花が咲きそろい、花の蜜を求めて何種類かの蝶々が訪れています。子どもたちは、虫取り網を片手に追いかけたり、虫の名前を調べたりするなど心を躍らせながら興味や関心を膨らませています。春からこれまで「生き物研究所」と名付けて看板も作り、「虫探し」や「虫調べ」を楽しんできました。

今では、空き容器を使用してカブトムシやテントウムシなどの昆虫を作ること、子どもたちの大好きな遊びの一つです。よく見ると、昆虫の羽が動くようになっていたり、体の色を工夫していたり、子どもたち一人一人の「こうしたい」という思いが伝わってきます。中には、「〇ちゃんのは、ここが違うの。」と説明にくる子もいます。友達の子と同じように作り始めているうちに、自分なりの工夫を加えられたことを、誇らしげに話してくれました。工夫したところを一緒に喜ぶと、「もっと作る。」と言って急いで戻って行きました。自分で決めたことをやり遂げて満足すると、人に伝えたくなり、自分の考えたことを受け止めてもらえると、また次の意欲につながっていくと感じます。

一日の園生活の最後には、「むしむしずもう」という、子どもたちが作った昆虫の「トントン相撲大会」を毎日のように開催しています。行司役は、手作りの軍配を持ち、虫の名前を対戦相手に尋ねてから、「西～カブト山～。東～カラフル蝶～。」と、取り仕切ることにも楽しみの一つです。自分で作った虫に、強そうな名前や親しみを込めた名前をつけたことを紹介する機会にもなっていて、注目されることが嬉しいようです。友達の作った虫の名前もよく覚えていて、友達の虫が勝利すると、一緒に喜ぶ姿も見られています。友達のしていることに関心を向けて自分の遊びに取り入れることもあり、対話を重ねていく中で学ぶことも多いと感じます。これからも、ふくろ幼稚園では、幼児期から始まる教育の柱である「対話的な学び」の場面を日々の保育の中で大切にしていきたいと思います。

《今月のめあて》

- 5歳児
もり組
・共通の目的に向かって、自分の考えを伝えたり、友達の考えや動きを受け入れたりして、友達と遊びや活動を進めていく。
・いろいろな運動遊びに取り組む中で、友達と十分に体を動かしたり、自分の力を発揮したりする。

今月の歌

☆ どんぐりころころ ☆

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1 | どんぐりころころどんぶりこ おいけにはまって さあたいへん どじょうがでてきてこんにちは ぼっちゃんいっしょにあそびましょう | 2 | どんぐりころころよろこんで しばらくいっしょにあそんだが やっぱりおやまがこいしいと ないてはどじょうをこまらせた |
|---|---|---|--|

